

# あうる

O W L

Treasure every meeting as it's chance to happen is only once in a life time.

北海道歴史秘話 25

明治のはじめ、広大な原野に建設された道都・札幌。整然とした街並みの基礎は、一〇年にも満たずつくられた。

札幌に住む和人は二家族だけ

開拓初期の札幌は、原始の姿をそのままとどめる茫漠とした大原野で、現在の南二条からススキノにかけては、茅や葦などが繁茂し、キツネの巣窟となっていた。道路は石狩から千歳、銭函から千歳に通ずる細道があるだけで、その道を時折、アイヌの人々が通行していた。

そんな札幌に開拓使判官しまはたけ島義勇が足を踏み入れ、街の建設に着手したのは、雪が野山を覆い尽くした明治二（一八六九）年の陰曆十一月十日（今の十二月中旬）のことだった。

当時、札幌に定住していた和人は、安政四年から豊平川の渡し場付近に住み、渡守をしながら猟師をしていた吉田茂八と、豊平川の鮭の密漁を取り締まる番人兼渡守の志村鐵一の二家族七人だけという、まことに寂しい状況だった。

そんな荒涼たる場所が、なぜ北海道の首府になったのだろうか。これにはいろいろな説がある。

そもそもこの議論は、阿倍比羅夫あべのひらふの遺業を継いで、後志羊蹄山麓に役所を設けるのが良い、ということから始まった。検討の結果、石狩原野の要地を選ぶことになったが、江別がいいという者と豊平付近にすべしという者の二派に分かれた。最後は江別派が勝ったものの、測量者が江別の川と豊平川を間違え、札幌に建都することになってしまったという、笑い話のような説もある。

## 札幌を道都とした理由

札幌について、古くは、天明五（一七八五）年に幕府の山口高品（鉄五郎）という役人が蝦夷地巡視の際にこの地を見て、国府に適しているとした。

その後、近藤重蔵が、蝦夷中心の地には、石狩川筋カバト山または小樽高島の奥または石狩札幌の西テング山の辺りを選ぶべきといっている。

さらには有名な二人の探検家、間宮林蔵、最上徳内が札幌を見て「昔からホオズキの繁茂する所とカラスの集まる所は繁栄した市街地になるとの俗説があるが、札幌はホオズキがたくさん茂っているから将来大都会になる」といったなどという、無責任な話もあった。

松浦武四郎の『西蝦夷日誌』でも「府を札幌に置けば石狩は大坂となり、札幌は京都



1 近藤重蔵



3 島義勇



4 岩村通俊



2 松浦武四郎

(1、3、4は『明治大正期の北海道 写真編』より、2は北海道大学附属図書館所蔵)

となり、手宮高島は兵庫神戸ともなり」と説いている。

いずれも札幌を北海道統轄枢要の地とするに、意見を一にしているが、最終的に新政府が北海道の中心を札幌としたのは、この武四郎の考えに基づいたようである。島が手紙に「地勢最も絶好——誠に松浦君御見込みの如く蝦夷地のうち此所を除き、またほかに求むべき場所たえてこれなしと存じ候」と記している。

## 島の更迭と岩村の就任

島は札幌の起点を現在の創成橋付近とした。島が着いた時の札幌は、まったく人気のない荒野。だがそこには、大友亀太郎が掘った一筋の運河（大友堀。現在の創成川）があった。島はこの運河を中心に都市計画を立てた。

しかし、予算枠を無視してお金をどんどん使ったため、島は開拓長官、東久世通禧と対立し、予算の使い過ぎと独断専行の責任を問われ、わずか三カ月で免職となった。

島の後任として札幌の建設を担ったのが、函館駐在の岩村通俊判官だった。このとき開拓使では、札幌の本府建設をこのまま続けるか否か、意見が分かれていたが、「予算が乏しい以上、官舎の建設と人の移住を一度に行うのは無理。まずは人を移住させ、周辺に村落をつくる」という岩村の意見に従うこととなった。

## 建設ラッシュ

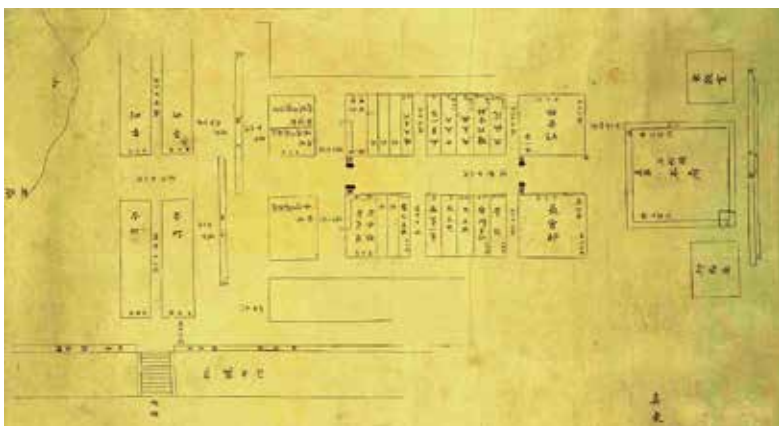
島判官時代には、市中にピーク時で七〇〇人が住んでいたというが、明治三（一八七〇）年に島が去った後、札幌に本籍を置いていた者はわずか九戸一三人に過ぎず、役宅七軒、官設の旅館一軒、個人旅館一軒ほどの、まったく寂しい集落となっていた。

しかし、明治四年になると、札幌本府の工事が再開され、その年の末には新移民を加えて二一戸、六三七人となった。さらに翌五年には開拓使本庁をはじめ役所関係の工事などが進み、五五六戸、一五五三人と人口が急速に増えていった。だが、ほと

んどがひと旗あげて故郷に帰ろうという者たちで、さっぱり腰が落ち着かず、働き手不足が岩村の最大の悩みだった。

建設ラッシュは明治六（一八七三）年の前半まで続き、市街地の形がほぼ三年でできあがった。岩村は一区画一〇メートル、道幅二〇メートルの碁盤の目の区画整理を進め、それが今でも札幌の街の特徴になっている。

創建時代には人口がわずか一〇人前後に過ぎなかった札幌。その札幌が東京以北最大となる一九〇万人都市になろうとは、島も岩村も夢にも思わなかったのではないだろうか。



石狩国本府指図 最初の札幌都市計画図（北海道大学附属図書館所蔵）

探検家たちに適地とされ、  
島義勇が青写真を描き、  
岩村通俊が形作った街は、  
一世紀を経て大都市となった。

# あつろの杜

北海道科学大学教授

岡村俊邦さん

みずみどり空間研究所主宰

吉井厚志さん

Interview

自然に近い森づくりに挑戦して25年。成長した森が見られる今、その手法「生態学的混播・混植法」を広めようと電子書籍『緑の手づくり』を出版した岡村・吉井さんのお話です。

吉井 「生態学的混播・混植法」は岡村先生が提唱したもので、私の北海道開発土木研究所（現・寒地土木研究所）時代に共同研究が始まり、今日まで二五年間、この方法に基づいた自然に近い森づくりを進めて来ました。しかし、東日本大震災後の防潮堤の緑化などを見ても問題があり、まだまだ知られていないことを痛感し、「本を書いてもっと広めなければだめだ」と思い、電子書籍『緑の手づくり』を四月はじめに出版しました。

最初は、岡村先生の応援をいただきながらすべて私が書くつもりだったのですが、やはり「生態学的混播・混植法」の科学的・技術的・研究的裏付けは岡村先生の世界ですので、先生にもお願いして書いていただいた。

岡村 電子書籍にして良かったと思います。いろんな写真を盛り込めましたし、細かい所を拡大して見られる。

吉井 二百枚以上の図と写真が入っています。

## 生態学的混播・混植法の森づくり

岡村 森づくりに際しては、造園屋さんが必要な木を持って来て、瞬間に一つの景観をつくってしまいう園芸手法もありますが、「生態学的混播・混植法」はその土地の遺伝子を持ったタネを採取し、苗木を育てて植える。それが大きくなると、非常に自然の森に近いものができ

## その土地のタネで

## 森づくりを・・・



吉井厚志  
よしいあつし

岡村俊邦  
おかむらとしくに

1979年北海道開発庁に入庁。河川・砂防・海岸等の公共事業に携わる。88年水文専門家としてマニラに派遣され、91年の帰国後、開発土木研究所環境研究室長に就任、岡村教授と共同研究を開始する。

森林の成立過程を応用した樹林の再生法「生態学的混播・混植法」の開発者。1991年以來北海道工業大学（現：北海道科学大学）で教鞭を執る。吉井さんと道内各地で試験・追跡調査を行い、手法の評価と改善に取り組む。

ます。この技術を伝えるために、『緑の手づくり』を読んで興味をもってもらう、北海道の現場に見に来てもらう。そしていいと思ったらやってもらう。そのきっかけをつくりたい。

吉井 この二五年間で二百ヘクタールくらいつくっています。税金を節約していることにもなるんですよ。造園的手法では一ヘクタール当たり数百万円から一千万円かかりますが、「生態学的混播・混植法」だとその数分の一。費用をかなり節約したうえに、造園的手法や林業的手法ではできないような自然に近い森ができました。岡村 私たちは森からいろいろな恵みを受けていますが、人工林から得られるものは木材だけ。天然

林には様々な木が混じっているの、いろいろな生物が棲んでいる。こういう森は持続していくんですよ。ここからいろんなタネが落ちて、また次の世代へと変わっていく。病気がはやって、ある種類の木はその病気でやられるけれども、他の種類の木は大丈夫。だから森がだめになることはない。

吉井さんが札幌河川事務所の所長時代に、地下鉄幌平橋駅近くのホロヒライという所にそういう森をつくりました。

吉井 開発局の官舎などの跡地で、市民の方々にここをどう使いたいか議論してもらったら「森と草っ原にしよう」と。そこで二〇〇〇年から二〇種類以上を植え始め、今は自然の森のようになっていきます。

岡村 できるだけたくさん種類を植えてあるんです。なぜそうするのかというと、例えば国蝶のオオムラサキの幼虫はエゾエノキの葉っぱしか食べない。蝶々は一〇二〇種類ぐらいいますが、そのうちの四〇種類が違う木の葉っぱを食べている。でも松を食べる蝶々はいないんですよ。松林にしてしまつたら蝶々は棲めない。いろんな蝶々が生きていくにはいろんな種類の木が必要になってくる。

吉井 「生態学的混播・混植法」の森づくりは小学生でもよく分かってくれる。

あいの里西小学校と西当別小学校がいまタネ採りから苗づくりをやっています。天売島の小学校も二年前から始めました。小平町は小平小学校と鬼鹿小学校。有珠山周辺では、洞爺湖温泉小学校や壮瞥小学校が関わっています。

洞爺湖温泉小学校からは、再生をキーワードにした防災教育を一二年前から頼まれ、今では防災施設の周りを森で覆っていくという動きに発展しています。

東日本大震災後の東北でも「生態学的混播・混植法」を進めようという動きがあります。

岡村 今の森づくりは、役所がお膳立てした所にみんなで木を植えに行つて、ただ「よかった、よかった」で終わる。私がお後どうなつたか見に行くとみんな枯れている。そういうケースが多すぎます。植樹は結果が見えるまでに時間差があるので、植えたものがどんどん枯れても、それを問題視する文化が日本にはありません。東北の被災地もそうです。そこが非常に問題ですね。

吉井 そういう意味でも『緑の手づくり』をどんどん広げていきたいと思いますね。

最近、テレビのクイズ番組などで漢字の書き順に関する問題をよく見かけます。タレントが正しく書けるかどうかを試して面白がる内容です。書き順は難しいですよ。たとえばよく似た形の「右」と「左」ですが、「右」の書き出しは「ノ」からなのに、「左」は「一」から書き始めるなど複雑です。

ではこの書き順なるものは、いったい誰が決めたのでしょうか？

現在その基準となっているのは、昭和三十三年に漢文学者や書家、小中学校の先生たちが編纂し、文部省がまとめた『筆順指導の手びき』です。

しかし、この『手びき』をよく読むと「学習指導上に混乱を来さないようにとの配慮から定められたものであって、そのことは、ここに取りあげなかった筆順についても、これを誤りとするものでもなく、また否定しようとするものでもない」と書かれています。

つまり、正しい書き順とはいふものの、あくまでも教育上、便宜的にそう決めただけで、絶対ではない。『手びき』どおりに書かなくても間違いではないのですよ、と言っているのです。

実際、『手びき』では、「上」を縦棒から書くのが正しいとされていますが、昭和三十三年以前に教育を受けた人たちの間では、短い横棒から書く人が圧倒的多数です。なぜなら、以前はその書き順が正しいとされてきたからです。「川」という字の縦棒を、真ん中から書いても良いのです。それを正解としている書物もあるくらいです。

ですからテレビの書き順クイズはナンセンス。書き順を気にするのは、書道で筆を運ぶときくらいのもので、あとは自分の書きやすいように書けばいいのですよ、みなさん。

O W L I N F O R M A T I O N

夏の夕べを彩るクラシックの響き

NHK交響楽団演奏会 北海道公演

函館公演 8月26日(水) 函館市民会館大ホール  
旭川公演 8月28日(金) 旭川市民文化会館大ホール  
北見公演 8月29日(土) 北見市民会館大ホール SOLD OUT  
札幌公演 8月31日(月) 札幌コンサートホールKitara大ホール  
開場/18:15 開演/19:00(21:00終演予定)  
入場料/S席6,000円、A席5,000円、B席4,000円、C席3,000円(全席指定)

※やむを得ぬ事情により、出演者・曲目・開演時間等に変更が生じる場合があります。詳細は<http://www.nhk.or.jp/sapporo/>

日本を代表するオーケストラであるNHK交響楽団(N響)が、この夏、北海道に上陸。全道4か所を巡る演奏会を開催し、北海道の夏の夕べを音楽で彩ります。

曲目は「楽聖」ベートーヴェン作曲の「エグモント」序曲、ピアノ協奏曲第3番、交響曲第5番「運命」の3曲。指揮にフィンランドの気鋭、ヨーン・ストルゴーズを迎え、ピアノには今、世界で活躍する注目の若手ピアニスト、アリス・紗良・オットが登場します。彼女の超絶技巧曲を弾きこなすテクニック、そして若々しく豊かな感性と、日本有数の歴史を持つオーケストラの共演をお楽しみください。



ヨーン・ストルゴーズ  
©Marco Borggreve



アリス・紗良・オット  
©Marie Staggat-DG

北海道のすべてがここに

北海道博物館

札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 TEL 011-898-0466  
開館時間/5~9月9:30~17:00、10~4月9:30~16:30(入館は閉館30分前まで)  
休館日/月曜日(祝日・振替休日の場合は直後の平日)及び年末年始(12月29日~1月3日)  
料金(総合展示室)/一般600(500)円、高大生300(200)円、中学生以下・65歳以上無料  
※( )内は10名以上の団体料金。ほか各種割引制度あり

1971年の開館以来、北海道の人々に親しまれてきた北海道開拓記念館が、道立アイヌ民族文化研究センターと統合し、4月18日から「北海道博物館」(愛称:森のちゃん)に生まれ変わりました。リニューアルされた総合展示室は、「北東アジアのなかの北海道」「自然と人とのかかわり」をコンセプトにした5つのテーマで展開。回廊で結ばれた各テーマを自由な順序で観覧できます。

また、館内はマンモスゾウの骨格標本(レプリカ)の下をくぐる導入部に始まり、復元されたアイヌ民族の家屋や大正時代の三等客車の模型を実物大で設置。ジオラマや映像装置なども充実し、開拓や暮らしの中で実際に使われた道具の展示と合わせて、子どもから大人までが体感して楽しめる見応え十分な仕掛けが施されています。

道民が知っているようで知らない北海道の自然や歴史、生活文化を一度で学べる博物館です。



向き合う2頭の象の骨格(レプリカ)

ハンディは、革新を生む個性だ

イノベーションへの挑戦

ハンディを個性に変える思考法  
柿沼博彦・著  
定価1,200円+税

雪と寒さ、長大なローカル線をはじめとする北海道の鉄道のハンディを「個性」ととらえ、振り子式特急列車や線路と道路の両方を走るDMVなどを開発してきたJR北海道。

その開発の中心的存在として知られる著者が、逆境に打ち勝つための「ものの考え方・運び方」を、当時のエピソードを交えて分かりやすく紹介。常識を抜け出し革新を起こす「非常識発想」など、21世紀の人材に求められる思考法のヒントが満載です。



中西出版  
四六判、196頁  
2015年4月刊行

蝦夷の言語に迫る

蝦夷の名の多くはアイヌ語系か

「日本書紀」「續日本紀」七、八世紀の蝦夷名  
明石博志・著  
定価2,000円+税

「蝦夷」については、辺民説・非アイヌ説・アイヌ説など諸説が取りざたされています。本書では「日本書紀」「續日本紀」7、8世紀に記録の蝦夷人名の多くはアイヌ語系を研究仮説とし、これらにある28人の蝦夷の名と同じ語頭・語尾を持つアイヌ民族の名を、延べ4,700人におよぶ資料から探り、その趣旨を検証。蝦夷やアイヌ民族に関心を持ち続けた著者の13年にわたる研究の結論を報告します。



中西出版  
A5判、139頁  
2015年4月刊行

自然に近い森づくりの技術

緑の手づくり

自然に近い森をつくる「生態学的混播・混植法」の成り立ちと広がり  
吉井厚志、岡村俊邦・著  
販売価格1,200円+税

樹木による緑化は樹林の出現まで時間差があるため、経過や手法の有効性の検証がなされない例が多く見られます。この「生態学的混播・混植法」は、自然林成立の過程を人の手でなぞること、わずか10数年で地域の自然に近い構成の樹林を再生できる技術として、25年にわたり検証・改良が積みかさねられた技術です。

その開発の歩みと成り立ち、北海道での実践例や今後の見通しを紹介します。



中西出版  
紀伊國屋書店 Web サイトや Amazon Kindleなど各電子書店サイトにて発売中  
※販売価格は希望小売価格です



今年はこのほか桜の開花が早く、連休の最終日に設定された出版業界恒例の花見会は、残念ながら葉桜の下での開催となった。現役・OBを交え80人を越えて集結。互いの近況報告から始まり、最近の本や文学賞について語り、話題は業界だけではなく日本の行く末にまで果てなく広がる。いつもの熱く楽しい光景でありました。▼通常出版の後で電子書籍化することが多い現実がある中、4月に出版された「緑の手づくり」は文字通り「デジタルファースト」として誕生した。紙数の制約を受けずに数多くのカラー写真・図版を掲載することを求める著者が選択した形態であるが、弊社も新しい体験をする事になった。(Y)

■発行・編集/中西出版(株)  
〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1-134  
電話011-785-0737 FAX011-781-7516  
E-mail: owl@nakanishi-shuppan.co.jp  
■発行責任者/林下英二  
■発行日/2015年5月25日



<http://nakanishi-shuppan.co.jp>